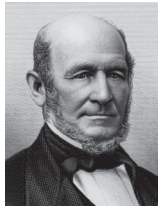


配付資料 1: 「貧困と苦難」に直面する

大管長会のヒーバー・C・キンボール管長（1801－1868年）は、当時十二使徒定員会の会員として奉仕していましたが、合衆国東部での伝道を終えてカートランドへ戻ったときのことについてこう書き記しています。



「わたしがカートランドへ到着すると、兄弟たちは主の宮を建てる業に従事していました。……教会は貧困と苦難のさなかにあり、その結果、〔神殿を建てるという〕戒めを果たすことはほとんど不可能なことのようには思えました。」（“Extract from the Journal of Elder Heber C. Kimball,” *Times and Seasons*, Jan. 15, 1845, 771）

1835年1月、教会員のジョン・タナーがニューヨークからカートランドに到着しました。彼は自分が受けた促しに従ってやって来たのです。

「彼は夜、夢もしくは示現を受けて、自分が必要とされているので西部の教会に行かなければならないと感じた。……」

カートランドに到着して分かったのは、彼がすぐに教会に向かわなければならないと感じたちょうどそのとき、預言者ジョセフが何人かの兄弟たちとともに祈り会を開き、神殿建設を予定している農地の抵当権を消滅させるのを援助してくれる兄弟を送ってくださるように願い求めていたということであった。

カートランド到着の翌日、……〔ジョンは〕上述の農地が間もなく抵当流れ処分となることを知り、預言者に2,000ドルの資金を用立てた。ジョンは預言者から利子を含めた借用書を受け取り、農地は2,000ドルで買い戻された。」（“Sketch of an Elder’s Life,” *Scraps of Biography* (1883), 12; 『わたしたちの受け継ぎ——末日聖徒イエス・キリスト教会歴史概観』, 31も参照）

• この話は、教義と聖約 95：11 で教えられている原則をどのように説明しているのでしょうか。